

事業計画書

事業名		おいしく・たのしく・簡単な 「まんま教室」～赤ちゃんから大人まで～
団 体	名称	子育てひろば はなっこ
	住所	倉敷市真備町川辺 98-1
	遂行責任者	松田 美津枝

1 団体の目的

* 定款，規約，会則等に定めている目的を，そのまま転記してください。
乳幼児を持つ親子が健康で明るく、安心して子育てができるように支援する事を目的とします。

2 事業の分野

* 次のいずれかが該当する分野に☑をしてください（複数選択可）。
保健，医療又は福祉の増進 社会教育の推進 まちづくりの推進
 観光の振興 農山漁村又は中山間地域の振興 学術，文化，芸術又はスポーツの振興
 環境の保全 災害救援 地域安全 人権の擁護又は平和の推進 国際協力
 男女共同参画社会の形成の促進 子どもの健全育成 情報化社会の発展
 科学技術及び学術の推進 経済活動の活性化 職業能力の開発及び雇用機会の創出
 消費者保護 団体の運営又は活動に関する連絡，助言又は援助

3 現状と課題

(1) 地域の状況や市民ニーズ

現代の乳幼児を取り巻く環境や食生活は大きく変化しています。核家族化や少子化などで、周りに相談する相手が居ないことや、ネット社会の情報の多様化により正しい情報を選択できにくい傾向にある。また、食生活においても夜間営業が増え 24 時間食べ物が入手できるようになり、手軽な食べ物にと変化してきている。同時に、食に対する意識が薄れ始め親になった時に離乳食を与える際に市販のものに頼ることも多く見受けられるようになった。その中においても、離乳食教室に積極的に参加したり、ネットで情報を得たりして、離乳食を進めていくが、なかなか食べてくれないことで、手作りする意欲が薄れる。また、アレルギーの心配がある子供も多く育児不安を抱え込むことも考えられる。このようなことが引き金となり、育児放棄や虐待につながる可能性もあると言われている。

(2) 本事業で取り組む地域課題

近年の子育て世代は働く人も多く、時間が無く手間をかけられないことや、基本的な食に関する知識が少ないように感じる。第二次倉敷市食育推進計画の中でも、20 歳代、30 歳代は、「食品を選んだり、食事を整えたりするのに困らない知識や技術」が他の年代に比べて少ないことが課題となっている。そのことから、「離乳食の作り方がわからない」「作っても食べてくれない」「アレルギーに不安」などの悩みを募らせて虐待に移行するような問題を抱えることも少なくないようだ。また、就学前の子どもに偏食のある子どもも多くみられ、旬の食材や行事食を経験できていないように感じる。

中には、祖父母世代も近くに住むなど三世代の交流はあるが、今どきの子育て事情によって深く口をはさめないなど、伝統や食への関心が引き継がれていないなどの問題が多い。また、つながりのある子育て支援の拠点やサロンの状況においても、市販の離乳食の持参を目にすることが多くなっているなど、離乳食などを調理することが少ないように感じる。

4 目的と概要

(1) 事業の目的

体験型の離乳食・幼児食教室を開催することで、乳幼児の親世代の食への関心が高まり、旬の素材を使った調理方法することで、家族の食生活も豊かになることを期待する。子育て支援の拠点やサロンとの連携を強化し、離乳食・幼児食の写真入り調理方法（ラミネート処理したプレート）を作成し提供することで、利用者がそれをきっかけに相談でき、調理してみようという意識の変化が期待できる。また、中学生や大学生に託児に入ってもらうことで、小さい子どもと接することや離乳食や幼児食に触れることになり、自身の食生活に関心を持つことに繋がり、同世代の学生に食育の一端となる波及効果を生むことになる。三世代交流・食育ワークショップは、食文化の伝達や継承、食への関心を持てるような機会となる。これらのことは、第二次倉敷市食育推進計画の若い世代への普及啓発の推進に寄与できると考える。

(2) 事業の概要

1) 簡単な離乳食・幼児食の写真入り調理法説明会および利用者への啓発

離乳食・幼児食の写真入り調理方法(ラミネート処理したプレート)を作成し、つながりのある子育て支援の拠点やサロンに提供し、それをきっかけに食生活や離乳食づくりなどの相談に乗ることができるようになる。そのプレート提供前に説明会を開催し、提供に対する思いや内容を共有する。説明会を実施したうえで、子育て支援の拠点やサロンで利用者に啓発してもらう。

2) 体験型の簡単に作れる離乳食・幼児食教室開催(各1回)

乳幼児を育てるにあたり、まだまだ料理をすることにも不慣れな親世代に、体験型の教室を開催する。

この際に、中学生や大学生を託児に参加してもらい、乳幼児に触れたり、離乳食や幼児食を試食したりすることで、母性や父性を育んだり、食生活の重要性に接することができる。

3) 三世代交流・食育ワークショップを開催

家族みんなで参加することで、支援者と現在の子育て事情を共有し、食文化の伝達、継承となる。

4) お楽しみ交流会の開催

今回の事業に携わる支援者や、健康づくり課をはじめとする行政、中学生や大学生を一堂に会し、たのしく手作り料理をして試食交流会を開催し、地域での顔の見える関係づくりをすすめ、課題の共有や今後の方向性について話をする機会とする。

5 受益者と効果

(1) 事業の受益者

乳幼児を持つ親世代

乳幼児を取り巻く祖父母世代

中学生、大学生(託児ボランティア)

(2) 事業の実施に期待する効果

- ・市販の離乳食・幼児食を利用している人が、写真入り調理方法（ラミネート処理したプレート）を見ることで、手作りしてみようと思えるようになる。またそれをきっかけとして、支援者と離乳食などの調理方法や、悩みを相談できるなど、食生活を見直す機会となる。そして、子育て支援の施設にも食への意識の高まりが期待できる。
- ・料理に不慣れな親たちが離乳食づくりを体験することを基本とし、料理に親しみを持つことができる。
- ・家族みんなで参加してもらうことで、お互いの思いを共有して、食生活への関心を持つ機会となる。
- ・学生が乳幼児やその親たちと託児で関わることで、食への関心が高まり、その周囲にも波及効果が期待できる。

6 団体の能力

(1) 団体が持つ能力

子育て支援の主な活動として離乳食・幼児食教室を開催している。また、市内の子育て支援センターの数カ所に離乳食教室の出前講座をしている。助産師、看護師、保健師を持つ花田助産院院長をはじめ、看護師、保育士、食生活アドバイザー、幼児食アドバイザー、幼稚園教諭など資格を持つものがある。また、それを支える地域の託児ボランティアスタッフは、主婦として特に食生活への関心と能力を持っている。

(2) 能力の活用

*課題解決に向けて、団体の能力がどのように役立ちますか。

離乳食・幼児食教室を開催している経験を基に、親世代に対し、簡単に旬の素材を使った調理方法を伝えることができる。

専門職を含む支援スタッフには、食に対する知識や豊富な経験と技術を持ち備えていることを活かして、基本的な調理技術を伝えることができる。

また、子育て支援者は、親世代に対し第三者的な観点で接することができ、世代間の壁が薄くなり交流がうまれる。

支援センターなどとの繋がりや、啓発用のプレートを提供することで、相談のきっかけとなり、食への関心と知識を広げる事ができる。

7 事業内容とスケジュール

(1) 事業の具体的な内容

1) 簡単な離乳食・幼児食の写真入り調理法の説明会の開催 (6 月)

簡単な離乳食・幼児食の写真入り調理方法 (ラミネート処理したプレート) を作成し連携拠点に提供する事前説明会を開催する。

対象：真備子育て支援センター (かなりや保育園)、まびいきいきプラザ、真備児童館、その他提供に賛同が得られた支援拠点や子育てサロン等 6 カ所程度の予定

内容：提供する理由・内容・使い方を共有することで内容を理解し、相談に対応でき同じ思いで伝えられるようにする。

2) 簡単な離乳食・幼児食の写真入り調理方法 (ラミネート処理したプレート) を作成し連携拠点に提供 (6 月頃から実施する予定)

対象：連携拠点の利用者 (乳幼児を持つ保護者)

内容：写真入り調理方法 (ラミネート処理したプレート) を目にする事で、連携拠点の保育士をはじめとする支援者を介して、連携拠点を利用する親世代に食育の大切さを伝えることができる。料理の方法や基本となる作り方など目にする事で「相談してみようかな?」「こんなのだったら作れるな」「こんな体験できるところに参加したい」と意識の変容が見られる。また、このプレートをきっかけに支援者も食生活や離乳食づくりなどの相談に乗ることができるようになる。

3) 体験型の教室開催 (2 回 , 受益者負担 : 300 円)

離乳食教室開催 (7 月)

対象：乳児期の親子 (20 組)

内容：乳児を持つ親子を対象に、簡単に旬の素材を使った離乳食を作り与えられるような教室を開催

・託児のサポートとして夏休みを利用して地域の中学生に小さい子どもとの接点や食育活動としても体験できるようにする。

幼児食教室開催 (9 月)

対象：幼児期の親子 (20 組)

内容：幼児期の親子を対象に、簡単に旬の素材を使った幼児食を作り与えられるような教室を開催

・託児のサポートとして大学生に入ってもらい幼児期の子どもと触れあい、幼児食に触れ食育の大切さを実際に体験してもらう機会とする。

4) 三世代交流・食育ワークショップを開催 (1 月 , 受益者負担 : 300 円)

対象：乳幼児を取り巻く親世代、祖父母世代 (30 組)

内容：支援者と乳幼児を取り巻く親世代や祖父母世代が、現在の子育て事情を共有し、家族みんなで参加できるような食育ワークショップを開催。家庭や地域で昔ながらの食文化を継承する機会になるよう簡単恵方巻づくりの体験学習を行う。

5) おたのしみ交流会の開催 (2 月)

対象：真備子育て支援センター (かなりや保育園)、まびいきいきプラザ、真備児童館、その他提供に賛同が得られた支援拠点や子育てサロン、託児に係った中学生、大学生

内容：今回の事業に携わる支援者や、健康づくり課をはじめとする行政、中学生や大学生など色々な世代が集いたのしく和気あいあいに料理をして試食交流会・意見交換を開催する。

1 , 3 , 4 , 5) の場所は、まびいきいきプラザで開催予定

(2) 事業のスケジュール

5月	簡単な離乳食・幼児食の写真入り調理方法(ラミネート処理したプレート)作成
6月	子育て支援の拠点に配布・設置のための事前説明会開催 離乳食教室の内容企画、メニュー作成、試作、チラシ作成発送、中学生・大学生ボランティア参加依頼
7月	* 離乳食教室開催
8月	幼児食教室の内容企画、メニュー作成、試作、チラシ作成発送
9月	* 幼児食教室開催
10月	中間まとめ
12月	簡単恵方巻きづくり試作、レシピ作成、チラシ発送
1月	* 三世代交流食育ワークショップ簡単恵方巻きづくり
2月	* おたのしみ交流会・意見交換会 倉敷市健康づくり課、真備保健推進室、その他子育て支援の拠点などこの事業に携わった支援者、託児に参加した中学生、大学生を含めた人たちと料理をして試食することで楽しく交流する。

8 目標

内容	現状	目標値
<p>・調理に慣れていない親たちに体験型の離乳食・幼児食教室を開催し、調理技術を習得してもらう。</p> <p>・子育て支援の拠点やサロンを介して、簡単な離乳食・幼児食の写真入り調理方法(ラミネート処理したプレート)を活用して具体的な調理方</p>	<p>・行政が実施する真備地区の離乳食教室は年2回しか実施されていない。内容に調理体験はない。現在実施している「はなっこ」の教室は託児付であるため10組までの参加としており、希望者をすべて受け入れられていない。</p> <p>・受講した人が手作りを3割継続している</p> <p>・乳幼児を持つ親世代支援センターなどの拠点や一時預かりなどに預ける際に、レトルトの離乳食を持ち歩く傾向にあり、調理方法について</p>	<p>・体験型の離乳食・幼児食教室に参加希望者を40組増員する。</p> <p>・教室の満足度 8割以上</p> <p>・手作り継続する人 参加者の6割となる。</p> <p>・写真入り調理方法(ラミネート処理したプレート)の説明会および利用者へ啓発を6か所の施設で実施する。</p>

<p>法を啓発する。</p> <p>・食文化の継承を目的とした、三世代交流ワークショップの開催</p> <p>・事業に関わったすべての人がお楽しみ交流会に参加することにより、食育について共有し、世代間、他の団体との繋がりをもつ。</p>	<p>具体的に示すことが必要ではないか。</p> <p>・巻寿司等、家庭や地域で昔ながらの食文化を継承する機会が少なくなっている。</p> <p>・三世代交流食育ワークショップを開催したことはない。</p> <p>・中学生や大学生を含めた様々な世代や関係者が一堂に会することは、いままで実施したことはない。</p>	<p>・ワークショップの開催 1 回</p> <p>・ 1 回開催</p>
--	---	---------------------------------------

9 受益者負担 団体の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

徴収する (見込み：資料、食材、保険料費として 300 円 _____)

徴収しない(理由： _____)

10 事業の見通し

*2 年後、3 年後といった将来、事業をどのように展開させますか。

体験型の離乳食・幼児食教室を開催することで、食生活を見直す機会となり、離乳食を手作りする人が増えるなど食への関心が広がる。この取り組みに学生ボランティアに参加してもらうことで、乳幼児や多世代とのふれ合いや交流が生まれ、食に感心を持つ機会となり、食育に繋がる。この体験型の教室を踏まえて、学生向けにしたり、妊婦や父親にするなど実際に作ってみるなど活動を広げていく。

11 他団体との協力

* 他団体と協力して事業を実施するときは、その団体名や役割を記入してください。

子育て支援の拠点（真備子育て支援センター、真備いきいきプラザ、真備児童館、子育てひろば ぽっかぽか、ピョンピョンや里帰りのうーちゃんのサロン）に、簡単な離乳食・幼児食の写真入り調理方法（ラミネート処理したプレート）の設置を通して、離乳食に対する悩みや相談を受けられる。その活動で、食を基とする悩みを持つ人を少なくし、健康な食生活が送れるようお互いに連携を持ち情報を共有する。

中学生や大学生を巻き込むことで、ボランティアに係った事や離乳食・幼児食について自身の周囲に広く話をしてくれるなど、波及効果を期待する。

12 行政との協働 **自主事業コースの団体は記入不要です。**

* 協働する市担当部署の名称、役割、協議をした日及び内容を記入してください。

担当部署：倉敷市健康づくり課、真備健康推進室

役割：広報や情報発信、行政としてのアドバイス、イベントの支援

協議日程

10月28日 市民活動推進課・健康づくり課と提案内容の確認。

11月2日 真備保健推進室の保健師と子育て世代の食育に関する問題点、状況を共有した

11月8日 真備子育て支援センター・真備健康推進室・児童館・まびいきいきプラザと連携会議に出席、真備保健推進室と提案書について共有した。

11月10日 健康づくり課と提案事業書作成し意見交換、修正案を共有した。

11月16日 健康づくり課と提案書作成における内容の確認とアドバイス受ける。

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
受益者負担	参加費	21,000	300円×20組×2回、300円×30組
会費からの繰入		0	
その他		0	
市補助金		119,000	
収入合計		140,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
人件費(会員) ₁	教室開催	6,000	2,000円×3人分
交通費(会員) ₁	ガソリン代	5,000	500円×10人×1回
人件費(アルバイト等)		0	
謝金(講師等)		0	
旅費交通費(講師等)		0	
消耗品費	教室・交流会開催	42,000	材料費(食器、巻すなど5,000) 食材費(試作分を含む 2,000×2+3,000×2+6,000×2+5,000)、コピー用紙(A4 ホワイト3冊×270、ピンク6冊×550)、角封筒A4(100 枚600円その他5,000円)
印刷製本費	離乳食レシピ版作 製・チラシ・アンケ ート印刷・資料作成	51,000	ラミネーターA3サイズ(8,880)、フィルム(1,079)チ ラシ印刷費(マスター1枚15円×6枚、1円×印刷枚数 裏表6000枚=6,090)、プリンターインク(5,743×6= 34,458)
通信運搬費	お願い・案内状郵送	2,000	82円他切手×10か所×返信用切手×10か所
保険料	活動保険、行事保険	9,000	活動保険(300円×12人) 行事保険(1,680円×3回)
使用料・賃借料	花田助産院使用料	20,000	準備・試作、案内チラシ作成、資料作り、会議等使用料 (800円×週2回×12か月)
外注費・委託費		0	
対象経費計		135,000	
食糧費	お茶・お菓子	5,000	
人件費			
その他		0	
対象外経費計		5,000	
支出合計		140,000	(収入合計と一致)

様式第3号

1：会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の1割を上限とする。

2：金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。